

施策評価シート（平成29年度実績評価）

◎ 施策の基本情報

総合計画 中期プラン	政策No.	1-1	政策名	農林業の振興	政策の 目指す姿	農林業者が安定した所得を 確保しています	施策 主管課	農村林務課	施策主管 課長名	佐々木昭司
	施策No.	5	施策名	森林の保全	施策の 目指す姿	森林が健全に育っています	関係課名			
	現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・当市の松くい虫による被害については、一部の地域を除き、大部分が被害量が多く、拡散している高被害地域に位置付けられ、駆除に係る国からの支援が少なくなっており、選択と集中による官民一体となった取り組みが必要となっています。 ・松くい虫被害木や林地残材などの未利用材のバイオマス燃料等への有効な活用が求められています。 ・高齢化や後継者問題等により里山等の管理が行き届かず、鳥獣被害が増加傾向にあります。 ・森林保護活動に参加する市民の割合が4.0%（市民アンケート）と低い状況となっています。 								

◎ 前年度の評価の振り返り

（前年度評価時の今後の方向性）

- ・水源地視察や木工教室に参加した住民は「また機会があれば参加したい」という意見が多く、市民が自ら取り組む「森林体験事業やシンポジウム」や里山整備等に支援するとともに、市有林を活用した植樹体験などを通じて、森林に対する意識の醸成を図っていく。
- ・市内の松くい虫被害の先端地域である大迫地区を集中的に駆除するとともに、ライフラインの確保と景観保全を目的とした被害木の処理を計画的に進める。また、被害木の有効活用としてと期待されるバイオマス燃料としての活用と樹種転換事業を組み合わせた施策を検討し、森林再生を官民一体となって推進していく。

（反映状況）

- ・水源地視察や木工教室を実施するとともに、市民が自ら取り組む「森林体験事業やシンポジウム」や里山整備等に支援した。また、市有林を活用した植樹体験を実施し、森林に対する意識の醸成を図った。
- ・大迫地区を集中的に駆除するとともに、ライフライン（道路・電線）の確保と景観保全を目的とした被害木の処理を行った。また、被害木の有効活用としてバイオマス燃料として活用するとともに、樹種転換事業を進めた。

1 施策の目指す姿の実現に向けた主な取組

(1) 森林保全の推進

- 観光地等の周辺や特用林産物の生産地である森林の保護
 - ・ 胡四王山周辺や戸塚森森林公園や東和地域の特用林産物を保護するため、重点的に駆除を実施
- 松くい虫被害木のバイオマス燃料としての活用
 - ・ 松くい虫被害木をバイオマス燃料として活用するため、関係機関と連携し、県が作成した利用ガイドラインに基づき、受け入れを実施
 - ・ 資源の有効活用を図るため、個人が持ち込み可能な小口買い取り制度を支援し、被害木の受け入れを推進
- 隣接自治体との連携による保全対策
 - ・ 遠野市との連携による観光ルートの枯損木の除去を行い、景観回復を図った
- 樹種転換の推進
 - ・ 松くい虫被害が蔓延している状況から、赤松林から他の樹種に転換を図った
- (2) 森林の多面的機能への意識啓発
 - 自伐型林業の推進と担い手の育成
 - ・ 山仕事講座や自伐型林業養成講座を開催し、林業担い手の育成に努めた
 - 地域住民による里山保全活動の支援
 - ・ 地域住民が自主的に行う里山整備事業に対して支援
 - 植樹、水源地観察、木工教室など森林や木材へ親しむイベントの開催
 - ・ 自然観察会や木工教室、小中学生による植樹体験を開催

2 成果指標

成果指標名	成果指標設定の考え方 (なぜ、この指標で成果を測ることにしたのか)	成果指標の測定企画 (どのように実績を把握するのか)	単位	数値区分	H26	H27	H28	H29	H30	H31
					目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
植樹などの森林保護活動に参加した市民の割合(E-2)	森林を保護する活動を実際に行っている市民の割合を示す指標です。増加を目指します。	出典：花巻市（市民アンケート） 問「あなたはこの1年間に次のような自然環境を守る行動を行ったことがありますか」に対し「(4)植樹などの森林保護活動」と答えた割合	%	目標値	6.0	6.5	7.0	4.7	5.0	5.4
				実績値	3.7	4.0	4.3	4.7		
里山保全活動が行われた面積	市民自ら里山保全に対する関心が高まっていることから、今後も里山再生を推進し適正な森林の機能維持を図るため	森林・山村多面的機能発揮対策交付金を活用した取り組み面積(出展 岩手県)	ha	目標値				40.6	41.8	43.1
				実績値				35.6		

3 成果指標の達成状況

達成度	達成状況に関する背景・要因
D	<p>■ 成果指標「植樹などの森林保護活動に参加した市民の割合」・・・【達成度b】 森林に関する様々な機会を提供し、森林に関する市民の意識醸成を図ることを進めている中で、アンケートの結果が目標値と同数であった。今後さらに市民への啓発活動を持続的に実施する必要である。</p> <p>■ 成果指標「里山保全活動が行われた面積」・・・【達成度c】 里山保全を推進するために、市民自ら国の事業を活用して実施しているが、当初予定した活動面積が取り組みを進める中で面積変更となり、実績として目標を達成できなかった。</p>

4 施策を構成する事務事業一覧

番号	事務事業名 事業内容(活動実績)	担当課	施策への貢献度		成果
			対象 直結度	意図 直結度	
1	森林保全啓発事業 森林が水源林として保全すべきことの理解を高めるため観察事業やイベントの開催 総参加人数325人 (水源地観察1回、木工体験2回、山仕事講座 初級編・中級編6月～8月、自伐型林業養成講座)	農村林務課	一致	直結	B
			A		
2	森林環境保全事業 森林保全のため、松くい虫被害拡大防止と森林資源の適正な維持管理 駆除材積1,314m ³ (駆除伐倒1,067m ³ 、樹幹注入183本、樹種転換8.19ha、いわて環境の森整備(県民税)247m ³ 、私有林巡視活動176回)	農村林務課	一致	直結	B
			A		

5 施策を構成する事務事業の検証

(①市民ニーズや市の関与の必要性が低下した事業、②投入コストのわりに成果が低い事業、③施策への貢献度の低い事業はないか)
・なし

(施策の目標を達成するため、さらに成果の向上を図る事業はないか)
・森林の持つ多様性に対する関心を高めるために、市有林を活用し子供たちや市民を対象とした植樹体験の機会を継続していく必要がある。
・松くい虫対策については、国の予算が減少する中、市内の先端地域である大迫を重点的に駆除事業を行うとともに、近隣市町と連携した駆除等により効果的な景観の保全とライフラインの確保を継続して行う必要がある。また、バイオマス施設を活用した被害木の処理を一層推進する必要がある。

(新たに取り組むべき事業はないか)
・松くい虫被害が蔓延している状況の中で、効果的な駆除と景観保全を確保するため、隣接自治体と連携した取り組みや、バイオマス燃料として活用を進めるための効果的な方策を関係機関と連携し引き続き検討する必要がある。

6 施策の総合的な評価

(課題)
・市民自らが木材や山林に触れ親しみ、森林の持つ多様性に関心を高めるイベントの企画や森づくりの情報が少ないことから、市民全体の割合から見れば参加者が少ない状況となっている。
・松くい虫対策は先端地域が北上したことから、国の予算が大幅に減額となっていることから、選択と集中による駆除と近隣市町や市民と連携した取り組みが必要となっている。

(今後の方向性)
・水源地視察や木工教室、市民が自ら取り組む森林体験事業やシンポジウム、里山整備等に支援するとともに、市有林を活用した植樹体験などを継続して実施し、森林に対する意識の醸成を図っていく。
・市内の松くい虫被害の先端地域である大迫地区を集中的に駆除するとともに、ライフライン(道路・電線)の確保と景観保全を目的とした被害木の処理を計画的に進める。また、被害木の活用方法としてバイオマス燃料に活用するため、伐採から植栽まで可能な樹種転換事業や植栽後の手入れを行うための森林整備事業を組み合わせ、民有林の松くい虫対策が進むよう関係機関が連携を図りながら森林再生を進める。